

ウルトラモバイルPC ユーザーガイド

モデル:M704

初版:2008年2月

ご注意

当ガイドに記載された仕様と情報は**予告なく**変更されることがあります。すべての変更は将来の版で反映されます。製造元は当文書の中での誤記や記載漏れについての責任を**負いかねます**。

商標

- **Windows™**はMicrosoft Corporationの商標です。
- **Bluetooth®**は所有者の商標です。
- 他の商標はそれぞれの所有者に属します。

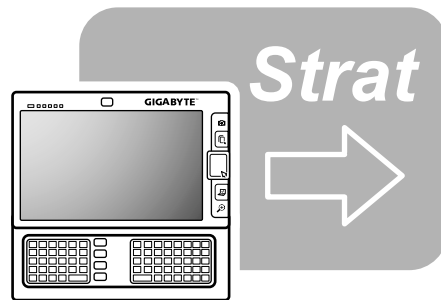
表記

以下の表記が当ガイド中で採用されています。

- **ボールド体**のUMPC (大文字小文字を問わず)はお買い上げのウルトラモバイルPCを指しています。
- **ボールド体**は、本書では**重要情報**を強調するのにも使用されます。
- 特に注意が必要な事項は、「**注意**」または「**警告**」という見出しで表示されます。

目次

ご注意	II	第3章 ドッキング・ステーション(オプション)	
商標	II	3.1 ドッキング・ステーションの外観	15
表記	II	3.2 着脱式スタンドの取り付け	16
		3.3 本体の取り付け	17
		3.4 スタイラス・ペン	17
第1章 始める前に		第4章 ベイモジュール・コネクタ	
1.1 お買い上げ品のチェック	2	4.1 フリップ・スタンドの取り外し	19
1.2 コンピュータ各部の確認	2	4.2 ベイモジュール	20
1.3 システムLED 5個	5	4.3 ベイモジュールのインストール	20
1.4 3つの制御スイッチ	6	4.4 GPSモジュールアンテナ	21
1.5 6つのシステムボタン	7	4.5 TVチューナーモジュールアンテナ	21
1.6 4つの通信ボタン	7	第5章 BIOSセットアップ・ユーティリティの使用	
1.7 メディアカード・スロットに関する注意事項	8	5.1 BIOSセットアップ・ユーティリティの使用	23
1.8 タッチスクリーンの調整	9	5.2 BIOSのアップグレード方法	27
1.9 動作温度	9	第6章 トラブルシューティング	
第2章 バッテリー		6.1 よくある質問	30
2.1 バッテリーパック	11	付録A 規定に関する注意事項	
2.2 バッテリーパックの充電	11	A.1 安全の指示	33
2.3 よくある質問と答	11	A.2 政府機関通知	36
2.4 バッテリーのお手入れ	12	付録B リカバリアップデートの紹介	40
2.5 消費電力	12		
2.6 消費電力を減らす	12		
2.7 バッテリーパックの取り外し	13		
2.8 本体をACアダプタと接続	13		



第1章 始める前に

ウルトラモバイルPCをご使用になる、前に、このセクションをご覧ください。

始める前に ⑦

日本語

1.1 お買い上げ品のチェック

お買い上げのウルトラモバイルPCには以下のアイテムが含まれています。



- ウルトラモバイルPC。
- ACアダプタ。
- AC電源コード。
- CDディスク(ドライバおよびユーザーズガイドを収録)。
- バッテリーパック。
- ユーティリティCD。
- 保護バッグ。
- 保証書。
- 予備のスタイラス・ペン。
- ドッキング・ステーション(オプション)。
- アンテナ付きテレビモジュール(オプション)。
- アンテナ付きGPSモジュール(オプション)。

注意: 修理を依頼する場合や輸送する場合に備えて、元の箱と緩衝材は廃棄せず大切に保管して下さい。

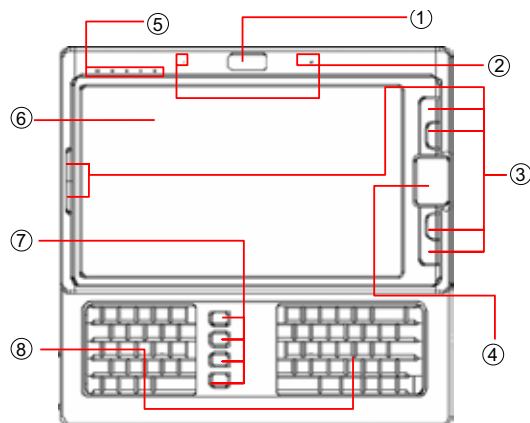
1.2 コンピュータ各部の確認

コンピュータをお使いになる前に、その主要な機能とインターフェースを知っておく必要があります。



操作の前に、表示パネルをスライドさせてキーボードが見えるようにします。

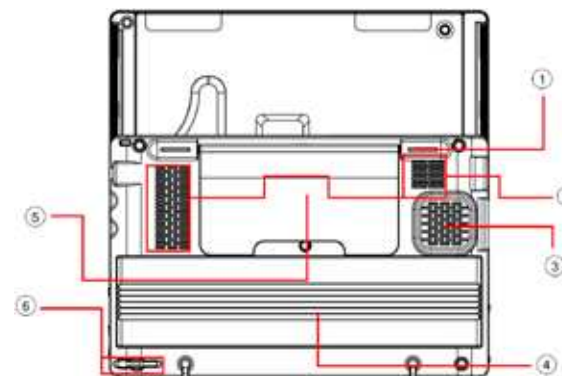
全体図



平面図

1. ウェブ・カム
2. 内蔵マイクロホン2個
3. システム・ボタン6個
4. タッチパッド
5. システムLED 5個
6. タッチスクリーンLCD
7. コミュニケーション・ボタン4個
8. キーボード

注意: タッチスクリーンLCDは、「ペンタッチ感度」と「指タッチ感度」という2つの操作モードで使用可能です。タッチスクリーンLCDは強く押すと壊れてしまいますので、軽くタッチするような感覚で取り扱って下さい。



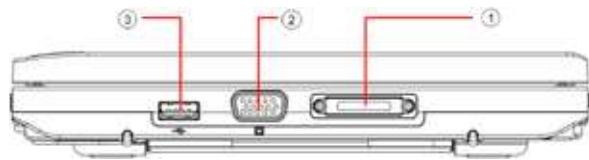
底面図

1. サポート・フット(また、フリップ・スタンドのロックと分離にも使用)
2. 通気口
3. スピーカー
4. バッテリーパック
5. フリップ・スタンド
6. スタイラス・スロット

注意: 本体タッチスクリーンLCDにスタイラスペンを使用すると、一般的なマウスの右クリックと同じように動作します。スタイラスペンを使用しない時は、紛失しないよう⑥スタイラス・スロットに収めて下さい。

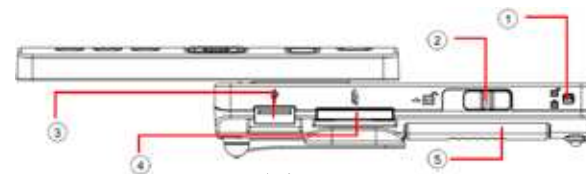
始める前に ⑦

日本語



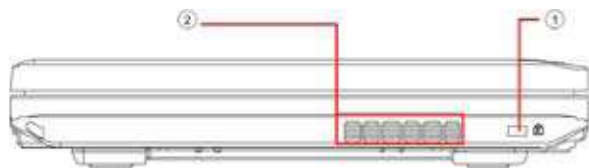
正面図

1. ドッキング・ステーション用コネクタ
2. VGAコネクタ
3. USBコネクタ



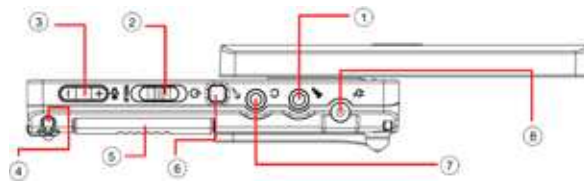
左側面図

1. バッテリー・ロック
2. バッテリー・ラッチ
3. USBコネクタ
4. メディアカード・スロット(SD/SD-IO/MMC)
5. バッテリーパック



背面図

1. ケンジントン・ロック
2. 通気口



右側面図

- 1 マイクロホン・ジャック
- 2 パワー/ホールド・スイッチ
- 3 ボリューム(増加/減少)スイッチ
- 4 スタイラス・スロット
- 5 バッテリー・パック
- 6 SAS (Alt+Ctrl+Del)スイッチ
- 7 ヘッドホン・ジャック
- 8 DC入力ジャック

1.3 システムLED 5個



Bluetooth® LED

このLEDは、**Bluetooth®**の電源がオンになると点灯します。**Bluetooth**の電源のオン・オフ方法の詳細は、**第1.6章**をご参照ください。



ワイヤレスLAN LED

このLEDは、**ワイヤレスLAN**の電源がオンになると点灯します。**ワイヤレスLAN**のオン・オフ方法の詳細は、**第1.6章**をご参照ください。



HDDアクセスLED

このLEDは、システムがHDDドライブにアクセス中に点灯します。



バッテリーパックLED

バッテリーの充電状態が表示されます

点灯	バッテリー充電中(急速充電またはプレ充電を行っています)
消灯	バッテリー非充電
点滅	バッテリー残量10%以下



電源オンLED

本体の稼動状態が表示されます

消灯	システムはオフまたはハイバネーションモード。
点灯	システムは稼働中。
点滅	システムはスタンバイモード。

注意: 5個のシステムLEDはディスプレイ・パネルの左上の近くに位置しています。正確な位置については、第1.2章の平面図をご参照ください。

スタンバイとハイバネーションに関するその他の詳細は、マイクロソフト Windows™オペレーティングシステムのコントロールパネルから電源オプションをご参照ください。

>Fnキー<

Fnキーを他のキーと同時に押すと、以下の機能が動作します。

[Fn]+[A]: スクリーン輝度を増大。

[Fn]+[Z]: スクリーン輝度を減少。

[Fn]+[S]: LCDまたは外部ディスプレイ間の切り替え。

1.4 3つの制御スイッチ



SAS (Alt+Ctrl+Del)スイッチ

このスイッチを押すことで、Windowsの「Alt」、「Ctrl」、および「Del」キーを同時に押したのと同じ効果が得られます。



パワー/ホールド・スイッチ

電源をON/OFFします。

スイッチを右(G)にスライドさせる事により、一般的なパソコンの電源スイッチと同じ動作をします。

このスイッチを左(HOLD)にスライドさせると、**キーボード、タッチパッド、LCDスクリーンの左上の6つのシステムボタン、および左/右のキーボードの間の4つの通信ボタン**からの入力が一時的に無効となります。手動でこのスイッチを中央にスライドさせると、上記入力装置の機能が復帰します。このスイッチの目的は、電源オンで本体がアイドル状態の際、これら入力装置の誤動作を防止することです。これら入力装置の正確な位置は、第1.2章の平面図をご参照ください。



ボリュームスイッチ

このスイッチの右側(+)をクリックすると、オーディオの音量が大きくなります。

このスイッチの左側(-)をクリックすると、オーディオの音量が小さくなります。

注意: 3つの制御スイッチは本体の右側面にあります。詳しくは第1.2章の右側面図をご参照下さい。

1.5 6つのシステムボタン



左マウスボタン

このボタンを押すと、マウスの左ボタンと同じ効果が得られます。



右マウスボタン

このボタンを押すと、マウスの右ボタンと同じ効果が得られます。



スナップショット・ボタン

このボタンを押すと、スナップショット機能と同じ効果が得られます。



タッチパッドオン/オフ・ボタン

このボタンを押すと、タッチパッド機能がオン・オフに切り替わります。



モビリティセンター・ボタン

このボタンを押すと、モビリティ設定の最適化メニューが表示されます。



ズームイン・ボタン

このボタンを押すと、ズームイン/アウト機能が起動し、マウス・カーソル付近の表示スクリーンの部分が拡大/縮小されて、表示スクリーン上側付近に表示されます。

注意:6つのシステムボタンは液晶ディスプレイの左/右に位置していません。正確な位置は、第1.2章の平面図をご参照ください。

1.6 4つの通信ボタン



Bluetoothボタン

このボタンを押すと、Bluetooth®モジュールの電源がオン・オフします。このボタンを押してBluetooth®の電源をオンにしても自動的にBluetooth®機能が有効となるわけではありません。電源を入れた後、Windows™を通してBluetooth®機能を有効にする必要があります。このボタンの主な目的は、飛行機、空港、病院のようにBluetooth®の使用が禁止されるか勧められない場所において、Bluetooth®の電源を素早くオフにできるようにすることです。



ワイヤレスLANボタン

このボタンを押すと、ワイヤレスLANモジュールの電源がオン・オフします。このボタンを押してワイヤレスLANの電源をオンにしても自動的にワイヤレスLAN機能が有効となるわけではありません。電源を入れた後、Windows™を通してワイヤレスLAN機能を有効にする必要があります。このボタンの主な目的は、飛行機、空港、病院のようにワイヤレスLANの使用が禁止されるか勧められない場所において、ワイヤレスLANの電源を素早くオフにできるようにすることです。



ウェブカム・ボタン

このボタンを押すと、ウェブカムモジュールの電源がオン・オフします。電源を入れた後、Windows™を通してウェブカム機能を有効にする必要があります。



GPS/TVチューナーモジュール電源ボタン

このボタンを押すと、GPSモジュールまたはTVチューナーモジュールの電源がオン・オフします。このボタンを押してGPSモジュールまたはTVチューナーモジュールの電源をオンにしても自動的にそれぞれの機能が有効となるわけではありません。電源を入れた後、Windows™を通してこれらの機能を有効にする必要があります。このボタンは本体の電源がオンで、GPSまたはTVチューナーモジュールが本体に接続されている時のみ有効です。**注意:**GPSおよびTVチューナーモジュールはオプションで、別に購入する必要があります。これらモジュールの本体への接続方法の詳細は、第4章をご参照ください。

注意:上記デバイスとモジュールを有効にする適切な方法は、以下の通りです。

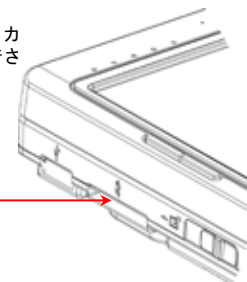
- 1) 上記ボタンを押して、デバイスとモジュールの電源をオンにします。
- 2) Windows™の中でそれぞれのアプリケーションプログラムを起動させます。

Bluetooth®の有効範囲は約10メートルです。

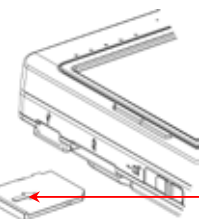
注意:4つの通信ボタンは左/右のキーボードの間に位置しています。正確な位置は、第1.2章の平面図をご参照ください。

1.7 メディアカード・スロットに関する注意事項

メディア・スロットカバーが本体に装着された状態。



メディア・スロットカバーが本体から外された状態。



メディア・スロットの上部の矢印。

注意:メディア・スロットカバーの取り扱いにご注意下さい。カード(SD/SD-IO/MMCカード)を何も装着されない場合は、付属の「メディア・スロットカバー」を必ず装着して下さい。カバーを装着する事により、異物混入による故障を未然に防ぎます。スロットカバーを装着する際は、上図に従い矢印が上側になっている事を確認してから装着して下さい。逆さまに取り付けると本体を損傷する可能性があります。

1.8 タッチスクリーンの調整

本体タッチスクリーンLCDにスタイラス・ペンを使用する事でマウスと同じような効果が得られます。使用中に以下の症状が発生した場合は調整を行って下さい。

- Windowsがインストールされた初回の起動時に、アクティブなカーソルがずれており、スタイラス・ペン先がタップするのと位置が異なる場合。
- 時折、アクティブなカーソルがずれており、スタイラス・ペン先がタップするのと位置が異なるのを見つけた場合。

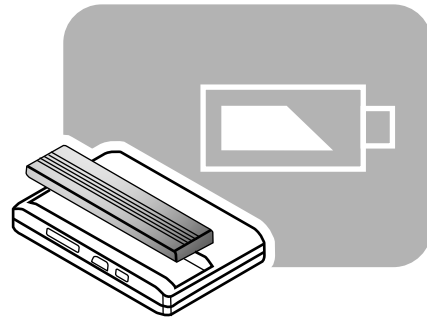
タッチスクリーンを調整するには、Windows™ XPのコントロールパネルのタブレットPC設定に入ります。タブレットPC設定画面で、全般それからキャリブレーションを選びます。そして指示に従って調整を完了させます。



注意: 調整を行なう前に画面表示解像度を1024x600に設定する必要があります。

1.9 動作温度

動作温度: 10°C~35°C。



第2章 バッテリー

2.1 バッテリーパック

お買い上げの**ウルトラモバイルPC**は高電力の充電式リチウムイオン(Liイオン)バッテリーパックを備えています。バッテリーの寿命は、製品構成、製品モデル、製品で実行するアプリケーション、製品のパワーマネジメント設定、および使用される製品機能によって異なります。他のバッテリー全般と同様、バッテリーの最大容量は時間経過と反復使用で減少してゆきます。

2.2 バッテリーパックの充電

ウルトラモバイルPCはオンラインおよびオフラインの両方の充電をサポートしています。以下の手順に従って、バッテリーを充電します。

- バッテリーパックが**ウルトラモバイルPC**に確実に装着されているのを確認します。
- **ウルトラモバイルPC**とコンセントにACアダプタを接続します。バッテリーパックが充電されているとき、バッテリーLED (液晶ディスプレイの左上に位置)が点灯します。LEDに関する詳細については、第1.3章をご参照ください。**ウルトラモバイルPC**がOFFの時、空のLiイオン・バッテリーはフル充電に約3時間かかります。

2.3 よくある質問と答

- Q:** バッテリーパックの側面が温かく感じます。これは正常ですか？
- A:** バッテリーは充放電時に若干発熱します。異常発熱に備え、内部に保護回路が入っておりますので心配はありません。
- Q:** バッテリーの持ち時間が短く感じます。なぜですか？
- A:** バッテリーは熱に敏感で、バッテリーとその周囲温度が15-25°C (59-77°F)の範囲にある場合にのみ、最大の充電効果が得られます。充電中の温度がこの範囲を逸れるほどバッテリーが完全に充電される可能性が少なくなります。バッテリーパックをフル充電するには、ACアダプタのプラグを抜くことで本体を冷ます必要があります。本体の温度が下がるまで待ってから、ACアダプタを再び差し込み充電します。
- Q:** 数日間、予備のバッテリーを使いませんでした。それを完全にフル充電しても、新たに充電したときほど多くの電力がありませんでした。なぜですか？
- A:** バッテリーは充電されていない時に、自己放電(リチウムイオンでは1日あたり1%)します。バッテリーパックが確実にフル充電状態で使えるよう、使用直前に充電してください。バッテリーは常に**ウルトラモバイルPC**に装着し、可能であればいつでもACアダプタを接続しておきます。

Q: 何ヶ月も予備のバッテリーを使っていませんでした。何か注意する事はありますか？

A: バッテリーパックを長期間自己放電するままに例えば3ヶ月以上放置すると、バッテリー電圧レベルがあまりにも低くなり、自動的に(リチウムイオンのみ)正常な**高速充電**を再開する前に、**プレ充電**(バッテリー電圧レベルを十分に高く引き上げる)が必要となります。**プレ充電**は30分程かかります。**高速充電**は通常2~3時間かかります。

2.4 バッテリーのお手入れ

バッテリーパックの最大容量を維持するにはは、時々**ウルトラモバイルPC**を充電する前に完全にそのバッテリーパワーを使い切るようにします。

バッテリーの完全な放電を実行するには、ACアダプタを外して、**ウルトラモバイルPC**に残存バッテリー電力を消費させます。放電を加速するため、なるべくHDDを使います。バッテリーが空になったら、**ウルトラモバイルPC**が冷める(特にバッテリー)のを待ちます。温度は15-25°C (59-77°F)の範囲であるべきです。それから、ACアダプタを接続してバッテリーを充電します。

2.5 消費電力

Windows™オペレーティングシステムは最新技術のACPI(アドバンスド・コンフィギュレーション・パワーインターフェース)電源マネジメント機能を搭載しています。バッテリーを効率よく使う為に、オペレーティングシステムの電源オプションについてのヘルプをお読みいただく事をおすすめ致します。

Windows™オペレーティングシステム上では、**ウルトラモバイルPC**に搭載された**Windows™**オペレーティングシステムのバージョンによってコントロールパネルの**電源オプション**を利用できます。詳細はここでは説明されていません。

2.6 消費電力を減らす

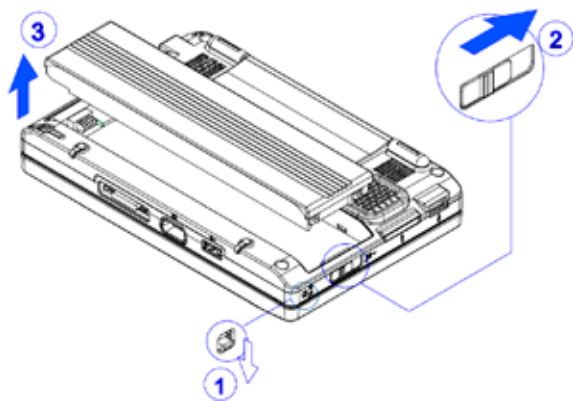
ウルトラモバイルPC (オペレーティングシステム搭載)は省電力が可能ですが、電力消費を減少させるいくつかの方法があります。

- 可能である時はいつでもAC電源を使います。
- 外付けUSB FDDを使う代わりにファイルの読み書きにはHDDドライブを使います。
- ウェブカム、ワイヤレスLAN、Bluetooth®などで未使用のデバイスを無効にします。
- Windowsを介してLCDパネル輝度を減少させます。

注意:システム電源をオン・オフする時はいつでも、バッテリーパックがバッテリーパック収納部に装着されていることをお確かめください。

2.7 バッテリーパックの取り外し

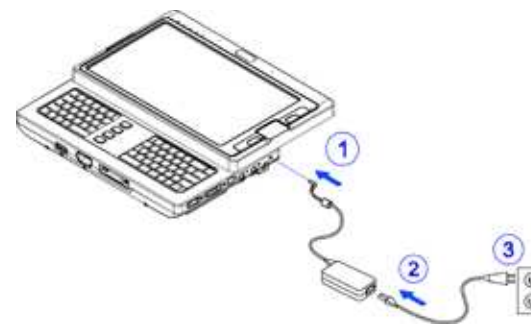
バッテリーパックの取り外し及び交換は簡単です。バッテリーパックを交換する前に、コンピューターが適切にシャットダウンされていることを確かめてください。安全の為、電源が入っている状態では交換しないで下さい。



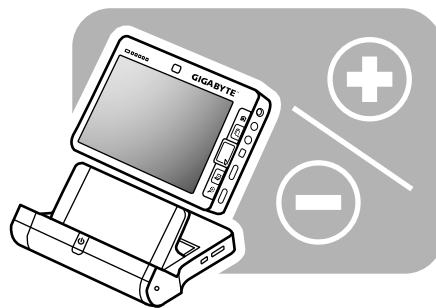
- システムが適切にシャットダウンされたことを確かめます。
- 図に示されるように、本体を裏返しに置きます。
- #1に示されるように、バッテリーロックをアンロック位置に押します。
- #2に示されるようにバッテリーラッチをアンロック位置に押し込みます。
- #3に示されるように、バッテリーパックを取り外します。

バッテリーパックを装着するには、上記ステップを逆に行います。

2.8 本体をACアダプタと接続



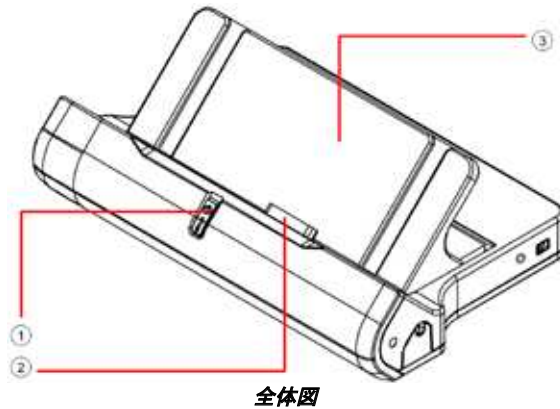
- #1に示されるように、**ACアダプタ**を本体に接続します。
- #2に示されるように、**AC電源コード**を**ACアダプタ**と接続します。
- #3に示されるように、コンセントに**電源コード**の他端を接続します。



第3章 ドッキング・ステーション(オプション)

モデルによっては、**ウルトラモバイルPC**はオプションのドッキング・ステーションが装備されます。このドッキング・ステーションは本体とのホット・プラグアンドプレイをサポートします。

3.1 ドッキング・ステーションの外観

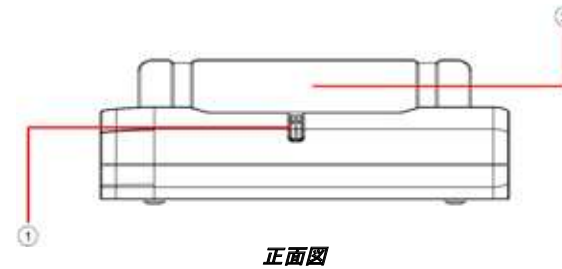


1. 電源ボタン
2. 本体へのコネクタ
3. 着脱式スタンド

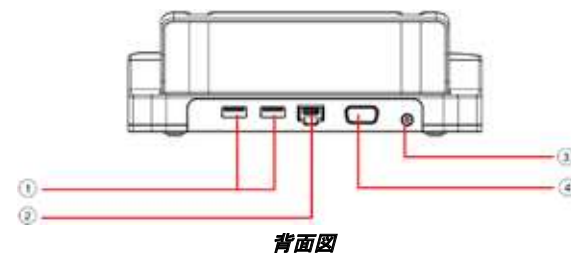
注意:この電源ボタンは第1.4章の中で説明されている電源スイッチと同じ機能を持っています。詳細は、第1.4章をご参照ください。

上図で示されるように、着脱式スタンドは、ドッキング・ステーションの本体に取り付けられないで出荷されます。着脱式スタンドの取り付け方法の詳細は、第3.2章をご参照ください。

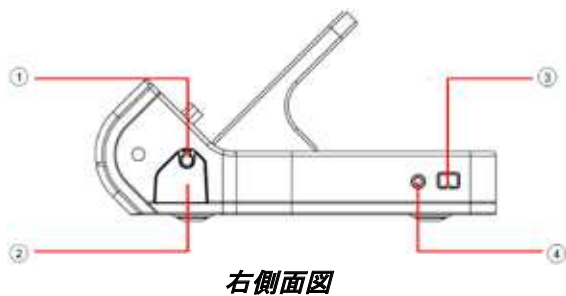
この着脱式スタンドの機能全てを使用するには、ACアダプタと接続する必要があります。



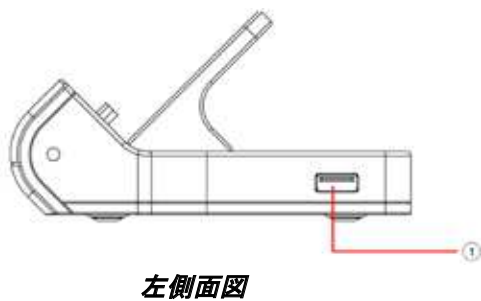
1. 電源ボタン
2. 着脱式スタンド



1. USBコネクタ
2. RJ45 LANコネクタ
3. DC入力ジャック
4. VGAコネクタ



- 1 スタイラス・ペン
- 2 スタイラス・ペン・トレイ(押して取り出し)
- 3 IEEE1394コネクタ
- 4 ヘッドホン・ジャック

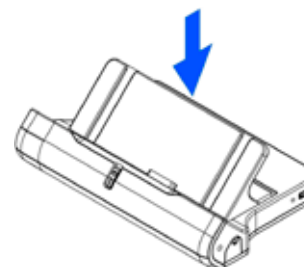


- 1 USBコネクタ

3.2 着脱式スタンドの取り付け



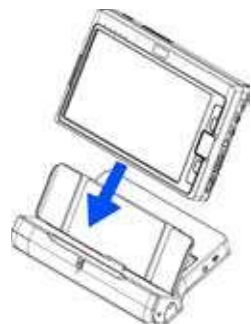
- #1に示されるように、ドッキング・ステーションと着脱式スタンドのほぞ穴とほぞを合わせ、ロックします。
- #2に示される方向に、着脱式スタンドの右側をスライドさせます。



- 図のように、着脱式スタンドとドッキング・ステーションを押し合わせて合致します。

着脱式スタンドを外す場合は、上記ステップを逆に行います。

3.3 本体の取り付け



- 両側からのコネクタの位置が合っているのを確かめます。
- 図のように、**本体**を下にスライドさせます。

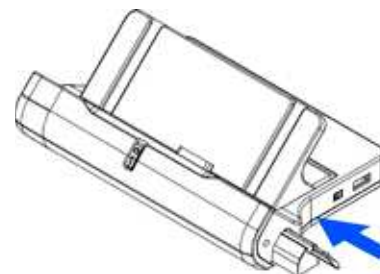


- 図のように2つのコネクタがきちんと接続されたら、**本体**の取り付けは完了です。

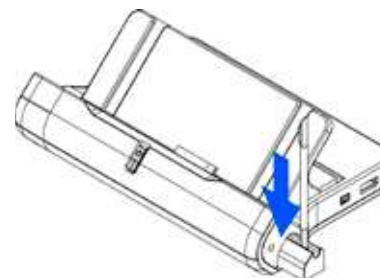
本体を外す場合は、上記ステップを逆に行います。

3.4 スタイルス・ペン

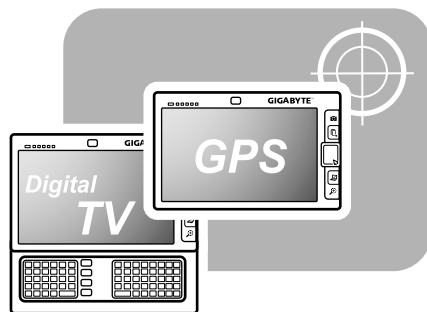
スタイルス・ペンは、図のように取り出して立てることができます。



- 図の方向に**スタイルス・ペン・トレイ**を押します。
- 図のように、トレイは外にスライドします。

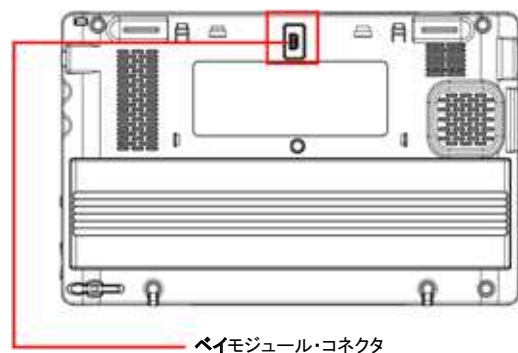


- 図のように、トレイはホールを備え、**スタイルス・ペン**を立てることができます。



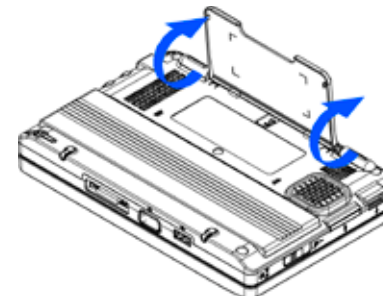
第4章 バイモジュール・コネクタ

このウルトラモバイルPCはベイモジュール・コネクタを有しており、これによってGPS (全地球測位システム)モジュールおよびTVチューナーモジュールが接続可能です。GPSモジュールとTVチューナーモジュール両方はオプションで、別途購入の必要があります。ベイモジュール・コネクタはフリップ・スタンドの下にあります。下図は、フリップ・スタンドを外したときの本体の下面図が示されています。

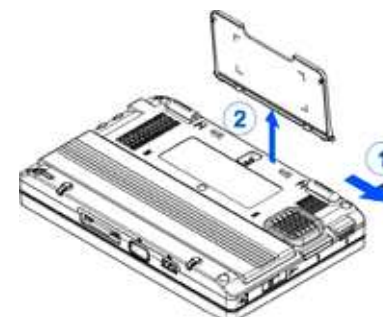


この章では、フリップ・スタンドの取り外し方法、GPSモジュールとTVチューナーモジュールの本体へのインストール方法を記述します。

4.1 フリップ・スタンドの取り外し



• 図のように、ほとんど直立の角度にフリップ・スタンドを起こします。

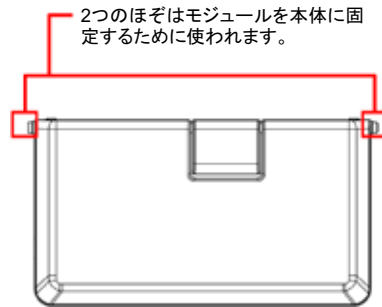


- #1の方向にサポート・フットを押し、スライドさせます。
- #2のように、フリップ・スタンドを取り外します。

フリップ・スタンドを戻すには、上記ステップを逆に行います。

4.2 ベイモジュール

外見の面では、GPSモジュールとTVチューナーモジュールは下図のようにほぼまったく同様に見えます。



- 本体に接続されるベイモジュールの外側。

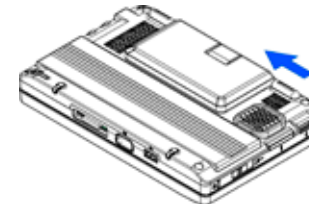


- 本体に接続されるベイモジュールの内側。

4.3 ベイモジュールのインストール



- #1のように、本体とモジュールのほぞ穴とほぞを合わせ、ロックします。
- #2の方向にサポート・フットをスライドさせます。
- #3のようにコネクタの後ろを静かに押して、モジュールを接続します。

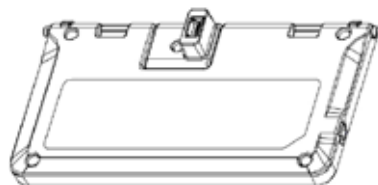


- 図の方向に、サポート・フットは自動的にスライドして戻ります。これでモジュールは本体にロックされます。

ベイモジュールを取り外すには、上記ステップを逆に行います。

4.4 GPSモジュールアンテナ

GPSモジュールには内蔵のアンテナが装備されています。



注意: GPSモジュールを使う前の注意事項は下記の通りです。

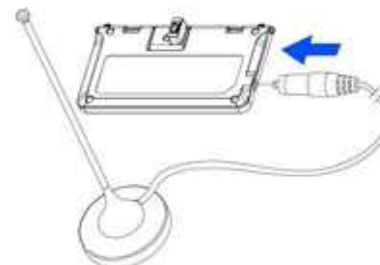
1. GPSドライバ(ドライバはM704ユーティリティCDに収録)をインストールします。
2. GPSモジュールデバイス通信ポートをCOM4にセットし、ボーレートを115200に設定します。

注意:

他の外部アンテナを試す場合、MMCXコネクタのある業界標準のアクティブタイプ外部アンテナを購入する必要があります。

4-5 TVチューナーモジュールアンテナ

TVチューナーモジュールには内蔵アンテナがありません。従って、下図のように、専用の外部アンテナを使う必要があります。

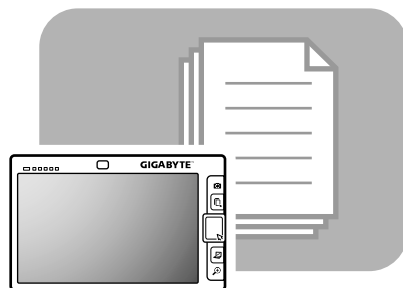


メモ:

1. TVドライバ(ドライバはM704ユーティリティCDに収録)をインストールします。
2. TVアプリケーション・ソフトウェア(アプリケーションCDは付属品パッケージ内)をインストールします。
3. TVチューナーモジュールに外部アンテナを接続します。

注意:

他の外部アンテナを試す場合、コネクタアダプタを購入する必要があります。コネクタアダプタの一端はTVチューナーモジュールに接続します。コネクタアダプタの他端は業界規格IECコネクタを有しており、お持ちの外部アンテナと接続するのに使われます。



第5章 BIOSセットアップ・ユーティリティの使用

5.1 BIOSセットアップ・ユーティリティの使用

UMPCにはBIOSセットアップ・ユーティリティが搭載されており、様々な機能のセッティングを含む、重要なシステム設定を行う事ができます。この章では、BIOSセットアップ・ユーティリティの使用方法が説明されています。

BIOSセットアップメニュー

BIOSセットアップ・ユーティリティにより、コンピューターのシステム設定を変更することができます。コンピューターを起動すると、この情報を元にハードウェアが初期化され正常動作するようになります。ユーティリティではスタートアップコンフィグレーションを変更できます。例えば、セキュリティや電源管理などです。

BIOSセットアップ・ユーティリティの起動

BIOSセットアップ・ユーティリティは、コンピューター起動直後からWindowsの起動画面が出る間のみ入る事が出来ます。既にコンピューターを起動している場合は、一旦電源を完全に切ってから再起動し、先のタイミングでFn+F2 キーを押してセットアップ・ユーティリティに入ってください。

BIOSでの操作および情報の入力

各欄に移動し、情報を入力するには、以下のキーを使います。

← →	スクリーンの選択
↑ ↓	選択に移動するには、上下矢印キーを押し、 Enter で選択をします。
+ -	オプションの変更
Tab	欄の選択
F1	一般のヘルプ
F10	保存および終了
ESC	どのセクションでも Esc を押すと終了します。変更を保存せずにBIOSユーティリティを終了するのを望む場合、メインメニューに移動し、 Esc を押します。

表示されている項目には値を変更できる項目と変更出来ない項目があります。変更できない項目はシステムの規定値が表示されています。変更したいメニューを選択し、Enterキーを押すとサブメニューが表示されます。ESCキーを押すと前の設定画面に戻ります。

メインメニュー

BIOS SETUP UTILITY		Main	Advanced	Security	Boot	Exit
System Overview						
Language	[English]	Select the display language for the BIOS. Use [+] or [-] to Configure system time				
System Time	[19:14:50]					
System Date	[Thu 01/01/2004]					
IDE HDD	[Hard Disk]					
System Memory						
System Memory: 704MB						
Processor						
CPU Type: VIA Father processor 1000MHz						
CPU Speed: 1000MHz						
BIOS Version: A8150B05						
KBC Version: 7121						
V02.59 ©Copyright 1985-2005, American Megatrends, Inc.						

図5-1

BIOS

BIOSセットアップ・ユーティリティの使用

詳細メニュー

BIOS SETUP UTILITY		Main	Advanced	Security	Boot	Exit
Advanced Setting						
LCD Light Sensor Control	[Enabled]	Options: Disabled Enabled				
Legacy USB Support	[Enabled]	← Select Screen ↑ ↓ Select Item ← Change Option F1 General Help F10 Save and Exit ESC Exit				
V02.59 ©Copyright 1985-2005, American Megatrends, Inc.						

図5-2

セキュリティメニュー

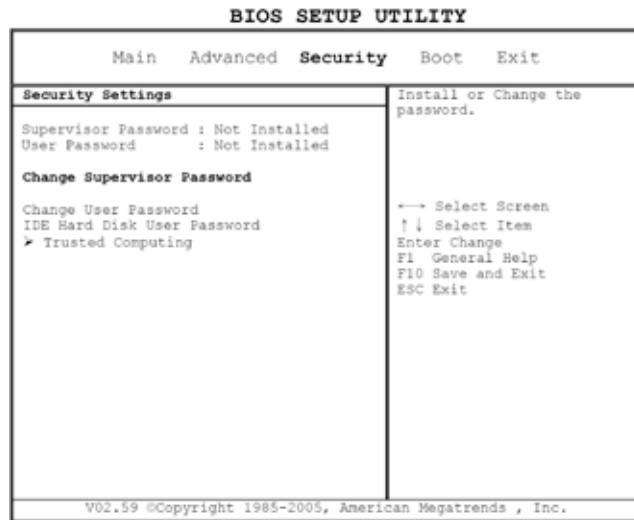


図5-3

ブートメニュー

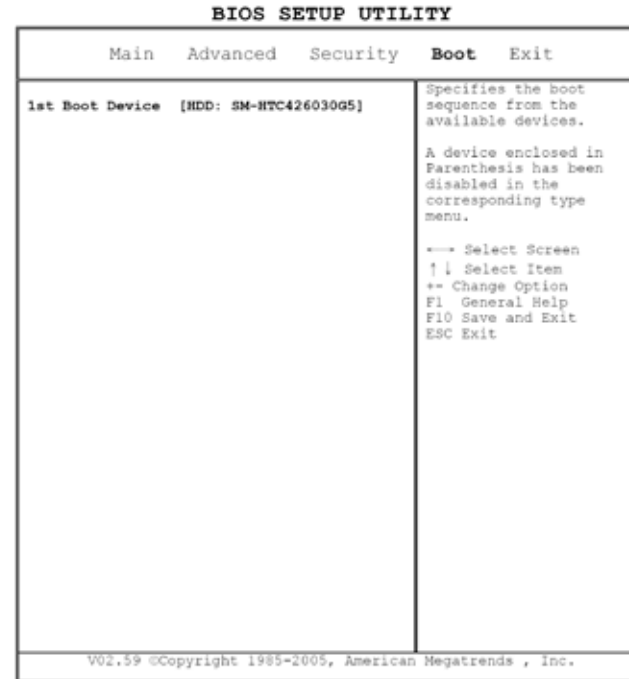


図5-4

終了メニュー



図5-5

ユーザパスワードの変更

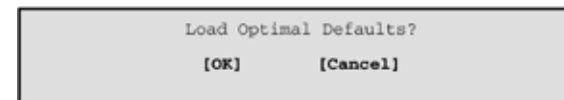
ユーザパスワードによって、セットアップ・ユーティリティを起動し、ユーザパスワードを変更または削除できますが、それが無効にされると、セットアップ・ユーティリティの起動や、管理者パスワードの変更および削除、フロッピーへのアクセスが不可能となります。

管理者パスワードの変更

より低いレベルのユーザパスワードを設定する前に、管理者パスワードを設定する必要があります。**Change Supervisor Password**を選んだ後に、**Enter**を押すと、新しいパスワードの入力が促され、それから再度の入力が要求されます。6文字以内でタイプ入力します。間違った場合は、**Esc**を押して最初からやり直します。

デフォルト設定へのCMOSのリセット

Exitページでは、CMOSをデフォルト設定に戻すことができます。Load Optimal Defaults 項を選択しEnterを押すと次の画面が表示されます。



[OK]を選ぶと、CMOSはデフォルト設定にリセットされます。

終了および保存

Save Settings and Exit	変更した内容を保存して、新しい設定内容で再起動します。(F10キーを押すと、どの画面からでも保存終了する事ができます)
Exit Without Saving	変更した内容を全てキャンセルして、元の設定値でコンピューターが再起動します。

5.2 BIOSのアップグレード方法

本製品は、アップグレードが簡単なEPROMフラッシュのBIOSチップが搭載されています。

BIOSをアップデートした場合、CMOSの設定内容はすべて初期化されますのでご注意ください。
最新のBIOSアップグレード・ユーティリティは、<http://www.gigabyte.com.tw>をご参照下さい。

DOS上でのBIOSアップグレード方法

1. BIOSアップデートを含んだディスクをフロッピードライブ(USB FDD、USBフラッシュディスク、またはフロッピーディスク)に入れます。
2. フロッピーをフロッピードライブに入れた状態で本体の電源を入れます。
3. DOSプロンプトで、以下のコマンドをタイプ入力します。

```
A:\>afudos XXXX.rom /p /b /n /c /X /R1/R2/SHUTDOWNまたは
(XXXX BIOSファイル名)
```

```
A:\>XXXXXX.BAT (BIOSファイル用バッチファイル)
```

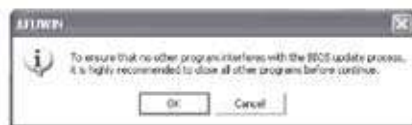
4. システムは現在BIOSアップグレードを自動的に実行しています。
5. アップグレード完了時に、システムは自動的にシャットダウンされません。

Windows上でのBIOSアップグレード方法:

1. Gigabyteウェブサイト<http://www.gigabyte.com.tw> (ホーム>サポート>ノートブック>BIOS>M704のBIOS)から、以下のファイルをダウンロードします。

① BIOSアップグレードツール (AMI WinPhlash) および ② 最新のBIOSアップグレード・ユーティリティ。

- ダウンロードしたファイルを解凍します。
- 解凍されたフォルダ中のAFUWIN.exeを実行します。OKをクリックすると、BIOSフラッシュを実行し始めます。



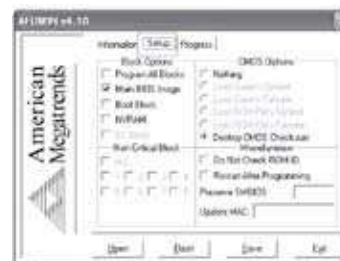
- 情報アイコンをクリックします。バックアップファイルおよび新しいBIOSファイルの位置を指定します。新しい設定によってBIOSをリセットする準備ができていれば、開くをクリックします。



- GBTウェブサイトからダウンロードするBIOS ROMファイルを指定して、開くをクリックします。

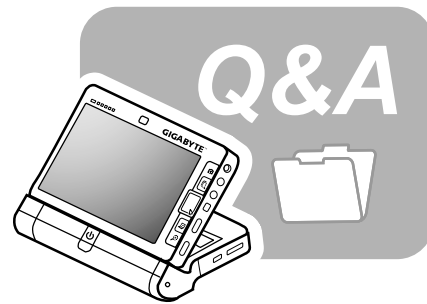


- セットアップアイコン(デフォルト設定をお使いください)をクリックし、フラッシュをクリックしてBIOSフラッシュを起動させます。進行状態はポップアップウィンドウに表示されます。プログラムが適切に実行されるよう、実行中のプロセスは中断しないでください。



- この時点でシステムはプログラムが完成されるようシャットダウンされます。システムを再始動させると、BIOSアップデートが完了します。





第6章 トラブルシューティング

この章では、度々生じるいくつかの技術的問題をリストにし、それらの解決方法が記述されています。

トラブルシューティング ⑥

日本語

6.1 よくある質問

Q: 私のコンピュータはあまりにも早くハイバネーションモードに切り換わるので、常にキーを打つかマウスを移動して、スクリーンを復帰させる必要があります。どうすればよいのでしょうか？

A: これはWindowsの電源管理で設定できます。スタート/コントロールパネル/パフォーマンスとメンテナンス/電源オプションをクリックします。電源オプションのプロパティが表示されますので必要に応じて設定を変更して下さい。

Q: ハードディスク上のファイルを整理することで、プログラムの起動時間を短縮できると聞きました。どうすればよいのでしょうか？

A: ディスクの正しいメンテナンスはプログラム起動時間を改善できます。これは不要なファイルの削除と、ファイルがより効率的にグループにされることができるハードディスクのデフラグが含まれます。Windowsはこれらのタスク用のメンテナンス・ユーティリティを備えています。不要なファイルを削除するディスク・クリーンアップおよび断片化されたファイルブロックを整理整頓するディスクデフラグを実行します。これらのユーティリティの詳細については、Windowsの説明をご参照ください。

Q: 内蔵ファックス/モデムの発信音ボリュームは低すぎます。どのようにボリュームを増大させることができますか？

A: スタート/コントロールパネル/音声およびオーディオデバイスからデバイスボリュームの下でボリュームバーをコントロールすることによってスピーカーボリュームが調節できます。

Q: UMPCコンピュータには、どんな種類の外部マイクロホンを使うことができますか？

A: 自己増幅マイクロホンを使う必要があるでしょう。

Q: スピーカーからエコーが聞こえます。どうしたらよいでしょう？

A: タスクバー上のスピーカーアイコンをダブルクリックします。そして、マイクロホンバランスの下で、ミュートボックスにチェックします。

Q: ソフトウェアの問題のため、Windowsからコンピュータをシャットダウンすることができず、コンピュータの電源ボタンを押しても、うまく働きません。どのように強制的にオフにすることができますか？

A: 最低4秒間電源ボタンを押し続けます。普通、これでコンピュータを強制的にオフにします。

Q: しばらく使用しなかったポータブルコンピュータのバッテリーに充電することができません。なぜですか？

A: あなたのポータブルコンピュータが、長い間(例: 数か月)使われなかった場合、バッテリーは低電圧保護モードに入ります。この状況下で、通常電圧への復元は、数時間の間ゆっくりした充電が要求されます。バッテリーが完全に充電されたら、通常の稼働状態に復帰します。

Q: コンピュータに以下が表示されます。「CMOS Battery Low」。何をすべきですか？

A: コンピュータが45日間以上電力なし(すなわち、コンセントからコンピュータ電源のプラグを抜いて、それからバッテリーパックを取

り外す)であるなら、CMOSに格納された情報を失います。

下記ステップに従って、CMOS設定を再設定します：

1. F2を押して、BIOSセットアップ・ユーティリティを起動させます。
2. 「Load Optional Defaults?」を選択します。プロンプトのあとで<OK>を選びます。そして次に<Enter>を押します。
3. 「Save Changes and Exit」を選択します、そして<OK>を選択します。そして、<Enter>を押すと、コンピュータが再起動されます。

Q: デバイスを取り外したり取り出す方法は？

A: 1.タスクバー端に表示されている「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンをダブルクリックします。「ハードウェアの安全な取り外し」には、現在接続されている安全に取り外しできる機器の一覧が表示されています。

「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンが表示されていない場合、接続されている装置は安全な取り外しに対応しておらず、「ハードウェアの安全な取り外し」を使用した機器の取り外しをすることはできません。

- 2.「ハードウェアの安全な取り外し」の機器リストから取り外したい機器を選択します。次に、停止をクリックします。これで機器を安全に取り外す事ができます。
- 3.ハードウェアデバイスの停止画面が表示されますので、OKをクリックします。
デバイスを安全に取り外せることを知らせるメッセージが表示されます。



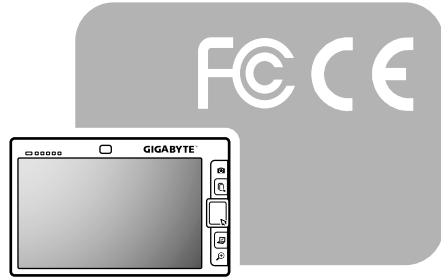
注意

- 取り外しをサポートするデバイスを外す際、先にハードウェアの安全な取り外しを実行しないと、データの消失やシステムが不安定になります。例えば、データ転送中に取り外しを行えばデータは消失します。安全に取り外すために、「ハードウェアの安全な取り外し」などを実行してシステムに知らせる事によりデータの消失を防ぐことができます。



注

- システム稼動中にリムーバブルデバイスを安全に取り外すためには、システムの設定でライトキャッシュを無効に設定して下さい。これを行わずに取り外すとデータの消失につながります。ライトキャッシュを無効に設定するとシステムのパフォーマンスが極端に低下します。取り外し作業が完了した後は、ライトキャッシュの設定を有効に設定して下さい。



付録A 規定に関する注意事項

A.1 安全の指示



注意:安全にご使用頂くために取り扱い説明書をよくお読み下さい。



注意:このユーザーズマニュアルは将来の参照のために保管してください。



注意:清掃する前に、この装置をACコンセントから外してください。お手入れには液状またはスプレー式の洗剤を使わないでください。清潔な湿った布切れを使ってください。



注意:コンセントを使用する時は、本体近くの容易に扱える場所を使用して下さい。



注意:この機器を湿度の高い場所に保管しないでください。



注意:機器はしっかりした表面に置いてください。落下すると、大きな損傷を生じる可能性があります。



警告:本体ケースの開口部は換気のためであり、過熱から機器を保護するよう意図されています。開口部は覆わないでください。



注意:本体を電源コンセントと接続する前に、電源の電圧を確認してください。



警告:電源コードを踏んだり、物を置いたりしないでください。



注意:機器に表示された注意および警告にはご注意ください。



警告:機器を長期間使わない時は、電源のサージから守るためコンセントから外して下さい。



警告:どんな液体も開口部にこぼさないでください。出火または感電の可能性があります。



警告:安全上の理由のため、前記に明示されたポート、ドア、および機器以外、資格を持つサービス要員によってのみ開けることができます。



注意:以下の項目に該当する場合は、機器の検査を依頼して下さい。

- a. 電源コードまたはプラグが破損した。
- b. 液体を機器にこぼした。
- c. 機器が過度な湿気にさらされた。
- d. 機器の動作不良またはユーザーズマニュアルに従ってもうまく操作できない場合。
- e. 機器が落下したか、破損した。
- f. 機器が破損した明らかな兆候がある。



注意:-20°C未満(-4°F)や60°C(140°F)以上の場所に機器を置かないでください。そうすると、機器への損傷が生じる恐れがあります。



警告:雷が発生している時はモデム/電話の配線を絶対に行わないで下さい。



警告:モデム/電話のジャックが特別な防湿設計をされていない限り、ジャックを湿った環境に設置・配線しないで下さい。



警告:モデム/電話の回線を切るまで、モデム/電話の露出した電線・電極を絶対に触らないで下さい。



注意:モデム/電話回線を取り付けるか修正する時は注意を払ってください。




警告:雷が発生している時はモデム/電話を使用しないで下さい(コードレスタイプを除く)。雷による感電の危険があります。





警告:このコンピューターは内部時計用のリチウム電池を持っています。誤った使用や交換を行うと爆発や損傷の恐れがあります。充電や分解、水に浸したり火気に投棄したりしないで下さい。交換は販売店にご相談下さい。





警告:バッテリーを間違った型番に交換すると爆発する恐れがあります。交換の際はメーカー認定品のみお使い下さい。使用済みバッテリーの処理方法はメーカーの指示に従って下さい。


 **警告:**本製品にはNi-MHまたはLi-Ionバッテリーパックを搭載しています。不適切な扱いをすると発火や化学薬品による火傷の恐れがあります。分解・衝撃(落下)・電極のショート、また水や火気に投入したり60℃以上の高温にさらしたりしないで下さい。


 **警告:**バッテリーパックはとても慎重に取り扱ってください。バッテリーケースのコネクタの金属部に触れるのは避けてください。


 **注意:**UMPCには専用ACアダプタのみをご使用ください。間違ったタイプのACアダプタを使うと、UMPCへの重大な損害を起こす恐れがあります。

 **注意:**ACアダプタの入力電圧は100Vから240Vで、ほとんどの国の電源電圧と互換性があります。電圧が不明な場合は地元の販売店にご相談下さい。

 **注意:**発火の恐れがありますのでヒューズは必ず同じ種類・定格の物に交換して下さい。

 **警告:**UMPCを過度な熱または冷気(霜)にさらさないでください。落としたり、液体をこぼしたり、ケースを開けたりしないでください。これはUMPCを損ない、保証が無効になります。

 **警告:**このデバイスは、精密設計のストレージ装置を装備しています。振動する環境下で操作を行わないでください。

 **警告:**LCDに搭載されているタッチパネルの構造上、下記の点にご注意下さい。

1. 作業領域のエッジ部に強い力を掛けない。
2. タッチパネルやフィルム面に強い衝撃や圧力を加えない。
3. タッチパネルの上に重い物を乗せない。

A.2 政府機関通知

FCC情報

この機器はFCC規則の第15部に準ずるクラスBデジタル機器の制限に準拠させるためのテストを済ませています。この制限は住宅地でインストールした場合に発生する妨害に対して、適正な防御を行うように設計されています。この機器は無線周波数エネルギーを発生し、かつ使用する為、適切にインストールして使用しない場合、ラジオの受信を妨害する恐れがあります。しかし、特定のインストールで妨害が発生しないという保証はありません。

もしこの機器がラジオまたはテレビの受信を妨害するような事態が生じた場合(この事態は機器のオフとオンを切り替えることで判定可能)、以下の措置のいずれかをとることによって、この事態を修正するようにして下さいをお勧めします。

- 受信機器のアンテナの方向か設置場所を変える。
- この機器と受信機器の距離を離す。
- この機器を受信機器と別のコンセントに接続する。
- ディーラーや経験豊富なラジオ/テレビ技術者に相談する。

改造

FCCは、準拠に責任のある製造者によって明確に是認されないこのデバイスに行われたいかなる変更または改造も、機器を操作するユーザー権限を取り消す恐れのあることをユーザに知らせます。

ケーブル

この機器との接続は、FCC規則と規定に従い、金属のRFI/EMIコネクタフード付きの絶縁ケーブルによってされなければなりません。

FCCによるRF放射規制

- このトランスミッタは、他のいかなるアンテナまたはトランスミッタと連携して共同設置や、操作はなされるべきではありません。

米国とカナダの安全要求および通知

FCCは、ET Docket 93-62での決定により、FCC 認証機器が放射する無線周波数(RF)電磁エネルギーに人体が晒される場合の安全基準を採択しています。このIntel PRO/Wireless LAN MiniPCIアダプタ製品は、OET-65,2001およびANSI/IEEE C95.1、1992に明記されている非制御製品の環境に対する制限事項を満たします。無線デバイスをマニュアルに示されている指示に従って適切に操作すれば、ユーザへの放射は、FCC 勧告限度値をはるかに下回ります。

以下の安全対策は守られるべきです。

- ユニットが送受信をしている間、アンテナに触れたり移動したりしないでください。
- 送信中は、アンテナのような無線機能を持つコンポーネントを、体の露出した部位に接近または接触させて保持しないでください。特に、顔や目には近づけないでください。
- アンテナを接続していない場合は、無線機を操作したり、データを送信したりしないでください。無線機が破損する恐れがあります。

特殊環境での使用:

- 危険場所のワイヤレス機器の使用は当現場の安全責任者によって提出された制約によって制限されます。

- 飛行機におけるワイヤレス機器の使用は連邦航空局(FAA)の規制対象となっています。
- 病院でのワイヤレス機器の使用は各病院によって説明された範囲内に制限されます。

爆発物近接警告

警告: 携帯型の送信機(ワイヤレス・ネットワーク装置など)は、そのような場所での使用に特に適したタイプでない限り、シールドされていない雷管の近くや、爆発物のある場所では操作しないでください。

航空機上での使用に関する注意

注意: FCCとFAAの規則により、無線周波数ワイヤレス機器の信号が重要な航空機器を妨げるかもしれないので、この機器の航空機上での操作は禁止されています。

カナダでの注意

このクラスBのデジタル装置はカナダ干渉原因装置規制に関するすべての必要条件を満たしています。

Avis Canadien

Cet appareil numérique de la classe B respecte toutes les exigences du Règlement sur le matériel brouilleur du Canada.

カナダ無線周波数干渉規制

このクラスBデジタル装置はカナダICES-003、Issue2、およびRSS-210、Issue4 (2000年12月)に従っています。

「認可されたサービスへの無線干渉を防ぐため、このデバイスは室内での使用のみに意図され、また最大のシールド効果を提供するため、本デバイスを窓から離れた場所に設置してください。デバイス(または送信アンテナ)の戸外での使用は、免許を取る必要があります。」

Cet appareil numérique de la classe B est conforme à la norme NMB-003, No. 2, et CNR-210, No. 4 (Dec. 2000).

“Pour empêcher que cet appareil cause du brouillage au service faisant l’objet d’une licence, il doit être utilisé à l’intérieur et devrait être placé loin des fenêtres afin de fournir un écran de blindage maximal. Si le matériel (ou son antenne d’émission) est installé à l’extérieur, il doit faire l’objet d’une licence.”

ヨーロッパ共同体の 通知

CEマークのある製品はヨーロッパ共同体委員会により発行されたEMC指示(89/336/EEC)と低電圧指示(73/23/EEC)に従っています。また、電気通信の機能性を有する製品ではR&TTE 指示(1999/5/EC))に従っています。

これらの指示への準拠は以下のヨーロッパ基準(括弧に、同等な国際規格と規則があります)との一致性を包含します:

- EN55022 (CISPR 22) – 電磁波障害
- EN55024 (IEC61000-4-2,3,4,5,6,8,11) – 電磁耐性
- EN61000-3-2 – (IEC61000-3-2) – 電源ライン高調波
- EN61000-3-3 – (IEC61000-3-3) – 電源ラインフリッカー
- EN60950 (IEC60950) – 製品安全

設備内蔵のワイヤレス装置に関しては、以下の追加規格が適用されます：

- ETSI301489-17: 無電装置の一般放射
- EN60950: 安全性
- ETSI300328-2: 無電装置のための技術的要求事項

CEによる注意：802.11b/802.11gワイヤレスLAN デバイスが使用する周波数は、国によってはまだ適応されていないため、802.11b/802.11g 製品は特定の国でのみ使用することを意図され、使用を指定された国以外で操作することは認められていません。お客様は、これらの製品のユーザとして、製品が意図された国内でのみ使用し、使用する国に合った正しい周波数とチャネルを用いて設定されていることを確認する責任があります。製品を使用する国において許可される設定以外での使用は、その国の法律違反となり処罰の対象となる可能性があります。

現在、フランス本土の以下の部分のみで屋内で無線LAN装置を使用できます。

01	Ain	36	Indre	69	Rhône
02	Aisne	37	Indre et Loire	70	Haute Saône
03	Allier	39	Jura	71	Saône et Loire
05	Hautes Alpes	41	Loir et Cher	72	Sarthe
08	Ardennes	42	Loire	75	Paris
09	Ariège	45	Loiret	77	Seine et Marne
10	Aube	50	Manche	78	Yvelines
11	Aude	54	Meurthe et Moselle	79	Deux Sèvres
12	Aveyron	55	Meuse	82	Tarn et Garonne
16	Charente	57	Moselle	84	Vaucluse
19	Corrèze	58	Nièvre	86	Vienne
2A	Corse Sud	59	Nord	88	Vosges
2B	Haute Corse	60	Oise	89	Yonne
21	Côte d'Or	61	Orne	90	Territoire de Belfort
24	Dordogne	63	Puy du Dôme	91	Essonne
25	Doubs	64	Pyrénées Atlantique	92	Hauts de Seine
26	Drôme	65	Haute Pyrénées	93	Seine St Denis

27	Eure	66	Pyrénées Orientales	94	Val de Marne
32	Gers	67	Bas Rhin		
35	Ille et Vilaine	68	Haut Rhin		

現在、上に記載されたもの以外のフランス本土のどんな部分でも無線LAN装置を使用できません。

上表で見出せなかったフランス本土部の最大許容されるEIRP 802.11bワイヤレスLANカードは以下の通りです。(フランスの海外領に関する情報は、www.art-telecom.frのARTウェブサイトをご参照ください。)

周波数範囲(MHz)	屋内	戸外
2400 – 2446.5	10 mW	不認可
2446.5 – 2483.5	100 mW	国防省からの承認を経た私有地での100mW

日本での通知

本装置は、第一種電気機器（住宅地域またはその隣接した地域において使用されるべき情報装置：住宅地域での電波障害防止を目的とした情報処理装置等電波障害防止規制協議会（VCCI）の基準に適合しております。

しかし、本装置をラジオ、テレビジョン受信機に近接してご使用になると、受信障害の原因となることがあります。本書の説明にしたがって正しい取り扱いをしてください。

DGTステートメント

根據 交通部低功率管理辦法 規定：

第十四條 經型式認證合格之低功率射頻電機，非經許可，公司、商號或使用者均不得擅自變更頻率、加大功率或變更原設計之特性及功能。

第十七條 低功率射頻電機之使用不得影響飛航安全及干擾合法通信，經發現有干擾現象時，應立即停用，並改善至無干擾時方得繼續使用。

第二十條 輸入、製造低功率射頻電機之公司、商號或使用者違反本辦法規定，擅自使用或變更無線電頻率、電功率者，除依電信法規定處罰外，電信總局並得撤銷其型式認證或型式認證標籤。

規定に関する注意事項 ㊦

日本語



付録B リカバリアップデートの紹介

UMPCを工場デフォルト値に復元する方法

復元する時機: コンピュータがウイルスに感染したか、オペレーティングシステムを工場デフォルト値に復元したい何らかの理由がある場合。

Xpress Recovery3 Lite (XR3 Lite) プロフェッショナルリカバリエューティリティを実行します。以下の手順で行います。

1. まずコンピュータを起動させます。システムがすでに稼働中であれば、コンピュータを再起動させます。
2. 起動画面(トレードマーク、ロゴ、またはテキストなど)が表示された直後、DOSスクリーンが表示されます。ここでF9を押します。

* F9は、プロフェッショナルな設定を復元する一般的なホットキーです。ホットキーが機能しない場合、コンピュータの製造元にご相談ください。

3. メニュー上に4つのオプションがあります。「RESTORE」(データを復元)「ABOUT」(XR3ソフトウェア関連の情報を表示)と「REBOOT」(リカバリーをキャンセルし、コンピュータを再起動)。工場デフォルト値に復元するには、「RESTORE」を選ぶようにお勧めします。



4. ここでプロンプト、「イメージを復元します？」がメニューに表示されます。イメージファイル*を復元するには「YES」を選ぶようお勧めします。「イメージファイル」とは、Windowsオペレーティングシステムデータ全部を圧縮した圧縮ファイルのことです。イメージファイルの復元により、オペレーティングシステムは工場デフォルトに復元します。



5. すべての選択がされた後に、スクリーンは「RESTORE NOW…」を示し、コンピュータが現在オペレーティングシステムデータを回復していることを表示します。リカバリが完了すると、コンピュータは自動的に再起動し、工場デフォルトに復元されます。

